

平成29年度 第2回木更津市図書館協議会 会議録

日時 平成30年3月17日(土) 午後1時30分～3時10分

会場 木更津市立図書館 会議室

出席者 藤平慶子委員 李程英委員 三上由美子委員 荻野敬次委員 宝剣純一郎委員
高岡礼乃委員 吉野三千代委員 林伸子委員 中原まどか委員 桂啓之委員

事務局 渡邊雅夫図書館長 五味則子副館長 鎌田節子副主幹

1. 桂議長挨拶
2. 議事録署名人選任(2名) 桂啓之委員 藤平慶子委員
3. 傍聴人 なし
4. 議題
 - (1) 平成29年度事業報告について
事務局から説明
 - (2) 平成30年度事業計画について
事務局から説明
 - (3) その他

質疑概要

(議長) 議題1、平成29年度事業報告について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 概要説明(省略)

(議長) ただ今の説明で質疑等ありますか。

(中原委員) 入館者数、貸出冊数が減少していますが、君津市で開館時間の延長をしているようですが、木更津ではどうですか。

(事務局) 木更津市で、以前、開館時間を延長した際も、その前後で比べてみますと利用者数は増加していません。

(中原委員) 1日図書館員体験に参加した小学生、中学生の割合はどうでしたか。

(事務局) 小学生の申込みが33人、中学生が10人です。抽選により実際に体験をしたのは、小学生が17人、中学生が4人です。

(宝剣委員) 入館者数、貸出冊数の減少を止めるための取り組みをしていますか。

(事務局) いろいろな人にもっと図書館に来ていただくため、各種事業を実施しています。28年度と比べて7歳～9歳、16歳～18歳、50歳～59歳、70歳以上の貸出冊数が増加しています。

(議長) 学校現場では、活字離れはどうですか。

(藤平委員) 今後の社会的事情を考えたら、今のお話にあった利用の多い年代が、このまま継続して利用するような働きかけを行っていけば、今後、全体の利用者は増加していくのではないかと思います。

県の図書館部会での話では、やはり活字離れは進んでいて、ネットでも気軽に読める漫画などが原作のノベライズ本への傾向が強まってきていると言われています。

(議長) 大学での感触はどうですか。

(宝剣委員) やはり良くないですね。まずは図書館に来てもらおうと取り組んでいますが、効果

については私達側ではまだわかりません。

(議 長) 大学に閲覧用のパソコンはあるのですか。

(宝剣委員) 学生に図書館に来てもらうために、閲覧用だけでなく、インターネットやレポート作成に使えるように、パソコンを16台置いて、学生が自由に使えるようにしているのですが、なかなか本の方までは利用者が増えていません。

(李 委員) 図書館のコンピュータは、家で調べることが出来ないことを調べられるのですか。

(事務局) 図書館が契約して利用料を払っていないと見られないものがあり、例えば、読売新聞の「ヨミダス文書館」で読売新聞の過去の記事を検索したり、第一法規法情報総合データベースを利用して最新の法律、判例等を調べること、また、国立国会図書館所蔵のデジタル資料で、一般のパソコンでは見られない文書を見ることが出来ます。

(李 委員) 無料ですか。

(事務局) 図書館では、資料の閲覧に対価をとってはいけないという法律がありますので、無料で見ていただけます。

(議 長) 他にありますか。

(李 委員) 八幡台小学校の図書室では、子どもたちに、今、推薦する本のことや、文化と世の中のことを組み合わせた展示で、一目瞭然で、大変魅力があります。学校図書室は本の数は少ないけれど、子どもたちがもっと本を読みたいから、もっと調べたいから、それには図書館へ行って本を探そうという気持ちを起こさせるようにしていったらいいと思います。

(議 長) 藤平委員も学校側から見ていかがですか。

(藤平委員) もっと本が読みたかったら図書館へ行こうですね。

(議 長) 他にご質問はありますか。

(中原委員) 木更津市読書推進計画策定に図書館側は関わっていますか。

(事務局) 主管課は学校教育課ですが、第1次計画から第3次計画まで全て図書館も関わっています。法律的には0歳から18歳が対象ですが、当時、木更津市では小中学校の図書室が機能していなかった現状を受け止め、市としては、小中学校の図書室を充実させようというところからスタートしています。対象を0歳から18歳ではなく小中学校の図書室の充実、図書館と学校の連携が太い柱となっています。

(議 長) 成果は現れていますね。

(事務局) それにより、読書相談員を小学校に配置し、その後中学校に配置し、今、すべての学校に配置されているのが成果のひとつとなっています。

(中原委員) 読書推進委員会があるのですよね。

(事務局) 当初あったのですが、途中からなくなりました。

(中原委員) 誰がどうやって運営しているのですか。

(事務局) 学校教育課の読書担当の先生が関わっています。

(中原委員) 一般の人は関わっていないのですか。

(事務局) 今は関わっていません。

(議 長) 学校教育のためのものなので、先生たちが集まって運営しているという形ですね。

(中原委員) 対象は小中学校、教育の場からということで、幼児は入っていないのですか。

(事務局) 読書推進計画の中には家庭での読書ということが入っています。

(事務局) 正式名称は「第3次木更津市子どもの読書活動推進計画」でホームページにもアップされています。

(中原委員) 一般の人が入っていないことに最近気づいて、どうしてかと思ったところです。

(事務局) 第1次計画の策定時点では、教育委員会で学校と社会教育を連携する学社連携会議

があり、その会議が計画策定に関わっていましたが、その後、学社連携会議が消滅し、関わりなくなったということです。

(議 長) 議題2、平成30年度事業計画について事務局より説明をお願いします。

(事務局) 概要説明(省略)

(議 長) ブックスタート事業についてももう少し説明をお願いします。

(事務局) 1992年にイギリスで識字率を上げるために始められ、赤ちゃんのころから活字に親しむというもので、2000年の「子ども読書年」に紹介されたのを契機に全国的に広がりを見せている事業です。日本では4か月健診や1歳6か月健診に、ボランティアの方が出向いて行き、図書館で進めている絵本を赤ちゃんに読んであげて保護者の方にその本を差し上げるというものです。本をあげるまでやらないとブックスタートとは言えない事となっています。木更津市では4か月健診で赤ちゃんに読み聞かせを行い、保護者の方にお勧めの本のリストや、図書館でのおはなし会の日程表をお配りするなどの活動はしてきましたが、本の配付はしていません。富津市で本年度からブックスタート事業の完全実施が始まりましたので、4市では本市だけが未実施となってしまいました。

(議 長) ブックスタートというものを認識していなかったのですが、良くわかりました。

(事務局) ブックスタートパックというものが1個1,000円位で、出生の人数分の金額がかかるので、その予算が必要となります。また、そこに携わる人も必要になります。

(議 長) 平成30年度にもっと前向きにやっけて行こうということですか。

(事務局) なかなか具体的な話となってきていないので、予算等も含め前向きに検討していくことといたします

(議 長) 県や国からの補助金はありますか。

(事務局) ありません。

(議 長) 林さん、何かご意見ありませんか。

(林委員) 保育園では0歳のクラスから、園児全員に本を買ってもらい、毎月来てくれる福音館書店の販売員さんから、本が届いたら毎日のように読み聞かせをして、子どもたちが大好きな本になってから本を渡してくださいという指導を、私達は大事に受け止めています。活字離れについては、保護者を見ても自分の子どもを見ても、すぐにネットで調べるという世の中なので、昔と比べると小学校でもだいぶ力を入れていて、ボランティアさんも入っているのですが、残念ながらネット世界の現状に追いついていけないというのが現状です。当園も週1冊の図書を、園児に借りてもらおうとしていますが、保護者の熱意にばらつきがあり、貸出が増えていないのが現状です。しかし、努力を続けることで活字離れに少しでも歯止めがかかれば良いと思っています。

(議 長) 保育園でもいろいろな努力をされているのがわかりました。この件でお聞きしたいことや、その他で何かありますか。

(吉野委員) 音訳ボランティアの立場から気になったのは、蔵書について音訳図書が492タイトルから781タイトルへと増えていますが、視覚障害者の方の利用状況をお伺いしたいと思います。

(事務局) 視覚障害者の利用状況は手元にデータがありませんが、音訳図書が増えたことについては、当館がサピエ図書館の会員になったことで、サピエ図書館からダウンロードできる資料が増えたことや、以前、音訳資料で整備中だったものが貸出できるようになったためだと思います。サピエ図書館についてですが、日本点字図書館が運営しているもので音訳のCDやマルチメディアのデータが集積されていて、それを契約している図書館でダウンロードして貸出できるようになったことが、資料の増加した理由

と思います。サピエについては、音訳が必要な方は、個人で契約されている方もいるので、爆発的に図書館の貸出が増えるということにはならないと思いますが、契約をされていない方の利便性は高まったのではないかと思います。今後は、音訳の会の皆さんにもご協力いただいて、いろいろな方法で、利用促進を図っていきたくて考えています。

(吉野委員) 今、視覚障害者だけでなく、高齢で細かい字を見るのがつらいという方にも貸出が出来るようになっていますが、そういうことがもっと広まって欲しいと思います。

(事務局) 音訳がそういう意味では有効かと思います。また、子ども対象のマルチメディア図書を図書館では伊藤忠記念財団のわいわい文庫から頂き、ひとりで本を読むことが難しいという子どもたちに貸し出すシステムになっています。そういうものも含めて利用していただけたらと思います。

(議長) 図書館に音訳のCDがあるということを皆さんは知っているのでしょうか。

(吉野委員) あまり知られていないと思います。木更津図書館ではデジ図書の貸出はしていないという認識です。私達は、蔵書の作成には携わっていません。しおさいの会では、委託を受けて、広報きさらづ、議会だより、福祉だよりを音訳し、CDにして利用者にお届けしています。

(李委員) 音訳の利用者はいますか。

(事務局) 音訳のカセットテープの所蔵があり、その利用はあります。

(議長) 音訳の会と図書館がもう少し連携されているのかと思いました。

(事務局) 新年度は、音訳の会さんの力をお借りして、情報を外に広める努力をしていかなければいけないと思います。ピアールの方法も考えてやっていくようにしたいと思っています。

(吉野委員) 蔵書が館内に並んでいないですね。要望があったら出してくるということですね。

(事務局) 点訳資料、音訳資料、大活字本、わいわい文庫のマルチメディアデジ図書の一覧表をホームページにはアップしています。

(吉野委員) 図書館に来られた方が、実際に目にする機会があれば一般にも広まって、高齢の方たちにも情報が届くのではないのでしょうか。一般の人はそういうものがあることを知らないですよ。

(中原委員) 今まで高齢の方が音訳を利用するという認識がなかったもので、初めて気づきました。

(事務局) スペースの問題や、利用については、障害者サービス利用の申込み手続きが必要で、一般の方の目に触れますと、当館はCD等の貸し出しを行っていませんし、視覚に障害のない方は利用できませんので、そういった混乱を避けるために慎重に対応させていただいています。高齢者の方は、大活字本は棚に並んでいますので、良く利用されています。

(議長) 三上さん、ご意見ありませんか。

(三上委員) 公民館の図書室はあまり活用されていないように感じます。小学生が学校帰りに寄って、親が迎えに来るまでのたまり場になっているようです。

(事務局) 図書館の職員が、週に1回公民館を廻って、公民館にリクエストがあった本を届けたり、整備を行っているのですが、公民館の業務として図書資料を備えて住民に供することが定められていますので、これからは公民館との連携を強め、本を借りていただくように取り組んでいかなければならないと思っています。

(李委員) 木更津の公民館図書室の本は少ないと思います。君津や袖ヶ浦の離れている公民館図書室は本が充実しているし、いつも職員がいます。

- (中原委員) 前にもお聞きしましたが、公民館との連携というところで、図書館で借りた本を公民館へ返すということは無理ですか。
- (事務局) 貸出する本や、リクエストがある本は利用者が多いので、図書館に置かれている時間が長いほうが好ましく、公民館へは週1回の配本ですので、図書館に返ってくるまでに時間がかかり効率が悪くなります。オンライン化されているのが、富来田公民館だけなので、返却したことがデータに反映されるまでに時差が出てしまい、誤解を招きやすいので現状のとおりとさせていただきます。
- (藤平委員) 公民館の蔵書は図書館の本を公民館に置いているということですか。
- (事務局) 一部に公民館が頂いた本はありますが、それ以外は図書館の蔵書です。
- (藤平委員) 公民館の蔵書を違う公民館に回したりするのですか。
- (事務局) 今年で2年目になりますが、年間に3つの公民館を目標に、公民館図書室の蔵書の整備を行っています。
- (議長) 図書館のあり方、今後の課題、日頃感じていることなど、皆さんからご意見をいただきましたが、30年度事業計画については、以上で終了とさせていただきます。
次に議題3、その他として本年度の生涯学習フェスティバルについて、実行委員の高岡さんから報告をお願いします。
- (高岡委員) 実行委員会の準備の段階で会議が3回あり、当日は岸本先生の講演会の受付を行いました。講演会には、さまざまな年代の方がお出でになり、天気も悪いこともあって、いろいろと戸惑うことはありましたが、何とか無事に終わることが出来て良い経験でした。
- (議長) 私も生涯学習推進協議会のメンバーで、今年は参加できなかったのですが、天候が悪いと体育館のイベント会場まで行かないで帰られる方がいて、動員数が少なかったのかと思います。ただ、いろいろな団体のご協力により成功だったとお聞きしました。
来年度は内容を吟味して、新たなフェスティバルを考えているようです。
それでは、他にご意見等ないようですので、本日の会議を終了させていただきます。

議事録署名人 委 員 桂 啓之

委 員 藤平 慶子